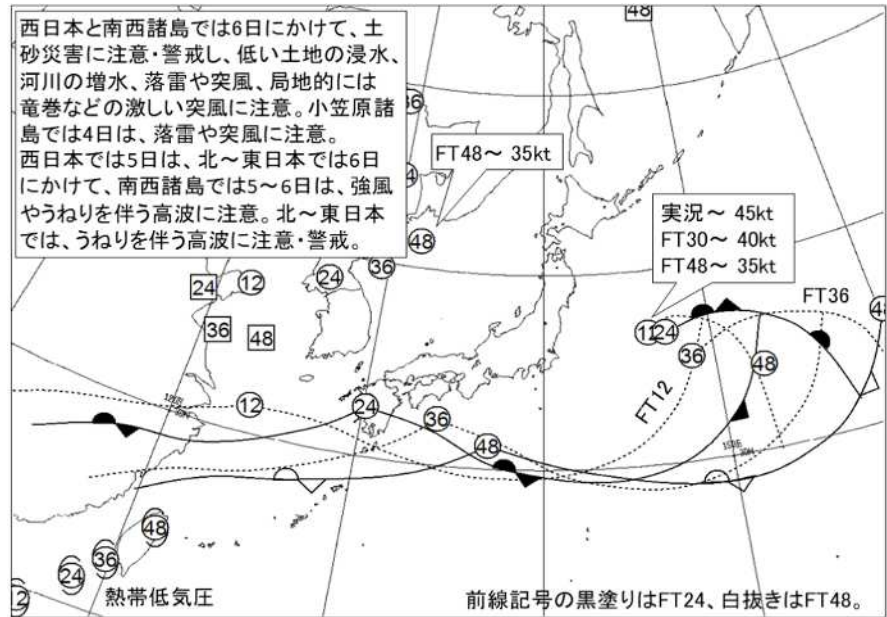


### 1. 実況上の着目点

- ① 3日21時に台風第6号から変わった低気圧が、関東の東を東北東進。北～東日本ではやや強い風を観測し、海上はしけの所がある。また、低気圧の北側の湿った東よりの風や上層トラフの影響で、北～東日本を中心に雨の降っている所がある。
- ② 500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が華中～東シナ海にのびており、前線に向かって850hPaの相当温位345～354Kの暖湿気が流れ込んでいる。前線近傍や暖域では対流雲が発達。東シナ海で強い雨を解析。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は上層リッジの南側で動きが遅くなるものの、6日にかけて日本のはるか東に進む。低気圧の影響でやや強い風や強い風が吹き、低気圧が離れてからも、うねりの伝搬でしけが続く。北～東日本太平洋側では、5日にかけて強風に注意し、6日にかけて高波に注意・警戒。
- ② 1項②の前線は次第に東にのびて、上層の正渦度極大域に対応する低気圧が前線上の東シナ海に発生して東進する。この低気圧は、5日にかけて九州を通して日本の南に進むが、その後は正渦度極大域が先行して不明瞭となる。また、5～6日は、前線が東シナ海や南西諸島付近にほとんど停滞する中で、熱帯低気圧が南シナ海から東シナ海に北上する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。台風第6号に伴う大雨の影響で地盤の緩んでいる所では、普段より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まる可能性があることにも留意。西日本と南西諸島では6日にかけて、土砂災害に注意・警戒し、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。小笠原諸島でも4日は落雷や突風に注意。日本の南に進む低気圧と前線の影響及び東シナ海に進む熱帯低気圧の影響で、やや強い風や強い風が吹き波が高くなる所がある。西日本では5日は、南西諸島では5～6日は、強風や高波に注意。
- ③ 5～6日は日本海を東北東進する低気圧とオホーツク海の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、東よりの風が強まって波が高くなる所がある。北日本では5～6日は、強風や高波に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。2項②の日本の南に進む低気圧と東シナ海に進む熱帯低気圧の発達程度は不確実性がある。

**4. 防災関連事項 [量的予報等]** ① 雨量 (06時からの24時間) : 九州南部150、九州北部120mm。

② 波浪 (明日まで) : 東北・関東5、北海道・伊豆諸島4、近畿・四国・沖縄3m。

**5. 全般気象解説情報発表の有無** 発表の予定はない。